

## 【表】原因から見た貧血の種類

種類		原因	病態・疾患など
①	赤血球の 産生低下	鉄不足	生理出血 消化管出血 痔出血
		ビタミンB12不足	胃切除 萎縮性胃炎 アルコール過剰摂取
		葉酸不足	アルコール過剰摂取 栄養不良
		その他の栄養不足	アルコール過剰摂取 栄養不良 銅、亜鉛摂取不足
	骨髄での 造血が低下	造血器腫瘍	急性、慢性白血病 骨髄異形成症候群 リンパ腫、骨髄腫など
		非腫瘍性造血器疾患	再生不良性貧血 ヘモグロビン異常症
		エリスロポエチノン産生低下	透析などの末期腎不全
		テストステロン低下 (男性ホルモン)	前立腺がんホルモン療法
②	失血(赤血球を失う)	出血	生理出血 婦人科疾患(子宮筋腫、内膜症など) 消化管出血(胃がん、大腸がんなど) 痔出血
③	赤血球が破壊される	溶血性貧血	自己免疫性 機械的破壊(マラソン、剣道など)
④	慢性炎症に伴う		リウマチなどの自己免疫疾患 甲状腺疾患
⑤	需要の増大		妊娠 成長期

## ■貧血の種類

**鉄欠乏性貧血**

前回は、血清の成分、働きから、血液疾患の患での症状について説明しました。今回は、最もよく見られる病態であり、種々の血液疾患のほかその他の病気でも見られる貧血について説明します。

が破壊されることによるもの、(4)慢性炎症によるもの、(5)需要の増大によるもの、に大きいく分けられます。今回はその中でも、鉄の不足が原因である鉄欠乏性貧血を中心に説明します。

球に含まれる鉄のリサイクルで、赤血球が壊されると、その鉄は再び利用される。しかし、貧血では、ゆつくりとした貧血の進行に体が慣れてしまうため、ヘモグロビン（赤血球の

「こんなに体が楽にならぬことはなく、臓器にたまつるなん」と実感されることは多く、私の外へ来では数年間にわたり通院されていた方もいらっしゃいます。貧血に対して鉄分を摂取するために「レバ」や赤身の肉を食べるといい」といわれますが、実は食物から吸収される鉄はごく少量で、主として植物性鉄と呼ばれるものが、主食から吸収されます。安価な鉄剤やサプリメントを使用しないで、主食をバランスよく摂取する方法が最も効果的です。

鉄分を体外に出て侵入するではなく、臓器にたまつて害を及ぼすことがあります。

球の产生低下によるものである。ネアルの一種で、不規則な貧血を起こす。体内では赤血球よりも骨髓で多く含まれるが、その他にも筋肉や肝臓などに貯蔵され、失血による場合は、骨髄での造血が低下したものが、その他の原因で失血を起こす。そして、骨髄での造血が最も多く含まれるが、その他の原因で失血を起こす。

主成分であり、体全体にわたることです。正常鉄欠乏ではない場合に、安易な鉄の補充という対応では、貧血が治らないどころか、体内の鉄の蓄積をきたします。過剰に摂取された鉄は、本体外に出す動きで失分してくると、そのため、治療で貧血が改善してくることがあります。

飲者では、栄養素のほか、葉酸、微量元素金属ほか種々の栄養不足をきたし、ひどい貧血にならることが少なくあります。

# 血液内科

## ～血液疾患とその対応②～

醫療最前線

するには鉄剤の内服が必要ですが、鉄剤の内服は胃の負担となり、嘔気や胃痛などを引き起すことも少なからずあります。これに対してもサプリメントは、内服の鉄剤と比較して鉄の含有量が少ないので、胃の負担は少なめになります。

しかし、注意しなければならないのは、**表**にあるように貧血にはさまざまの原因があり、必ずしも単なる鉄分の不足とは限ら

「こんなに体が楽にならなくていい」と実感されることが多い。私の外見では数年間にわたり通院されていました。

主成分であり、全体全体に酸素を運ぶ)が正常の半分以下の値であつても「別にたいしたことがない」と感じられる方も多いです。

貧血など  
栄養欠乏性貧血は、  
鉄欠乏だけではありません。  
胃がんなどの手術で胃を全て摘出して数年経過してから発症する、ビタミンB12欠乏性貧血は有名です。胃がんのフォローが終了した後、血液内科で紹介されて初めて診断されることもあります。また、胃の切除除はないのに、萎縮性胃炎によるビタミンB12欠乏をきたし、初めて血液内科で診断できた

鉄分を体外に出て侵入され、ではなく、臓器にたまつて害を及ぼすことがあります。

こうしたことを防ぐには、血液内科を受診いただき、貧血の原因診断、程度、そしてどのような治療法が適しているかを判断してもらうことをおすすめします。安価な鉄剤やサプリメントを服用しながら、数ヶ月に一度受診して血液検査を行うことで、貧血の再燃をきたさない方も多く経験しています。

飲者では、栄養素のほか、葉酸、微量元素金属ほか種々の栄養不足をきたし、ひどい貧血にならることが少なくあります。

底からの強い衝撃で赤血球が壊されて貧血を起こすことがあります。貧血は原因を明らかにしてこそ、適切な治療、それによる改善が期待できます。「たかが貧血、されど貧血」です。安易な自己判断、自己治療をせずに一度、街の血液内科を受診してみることをおすすめします。

■ その他の貧血  
白血病、骨髓異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの悪性疾患（いわゆる血液のがん）や再生不良性貧血では、骨髓での血球産生低下による貧血をきたします。これらの場合には、白血球や血小板の異常を伴います。